

普及センター

もりおか



第113号平成23年10月24日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎

「みやこ&もりおか食の匠の技満喫!!」を開催しました

盛岡農業改良普及センター、八幡平農業改良普及センターでは、10月8、9日に盛岡地方、宮古地方の食の匠によるイベント「みやこ・もりおか食の匠の技満喫!!」を開催しました。

このイベントは内陸と沿岸の復興支援を目的に「盛岡広域商工団体 復興応援観光・物産フェア」と同時開催したもので、もりおか歴史文化館周辺を会場に行いました。



多くの来場者でにぎわう食の匠のブース→



参加した食の匠は延べ26人。「みやこ・もりおか食の匠ランチセットの販売」、1日4回の「認定料理の実演会」、食の匠が作る「加工品の販売」を通じて、郷土料理の伝承、消費者との交流、食の匠のPRを行いました。

←加工品を通して交流する食の匠と来場者

2日間とも天候に恵まれ、多くの来場者でにぎわいました。100食限定のランチも早々に売り切れ、試食も魅力のひとつの1日4回の実演にも各回20~30人の方々が集まり加工品販売も早々に品薄になるという状況でした。



宮古地方と盛岡地方の食の匠の加工品が並ぶ→



↑人気の実演

来場者の皆様からは、試食して「うん、おいしい。」、実演ではレシピを手に「これなら自分でも作れそう!」などの声が聞かれました。参加した食の匠たちはみな「とても楽しく充実した時間だった」と満足げで、「県全体の食の匠のイベントがあるととてもいいと思う」など前向きな意見も出されました。

普及センターは、今後も食の匠の活動支援を通して、地元の元気づくりといわての食文化の伝承に取り組みます。

水稲収穫における農作業安全～夜間作業に安全ベスト着用の取り組み～

秋の農作業では、日没が早まり暗い中での作業時間が増えるため、道路上での追突や圃場での機械の巻き込まれ等、事故の危険が高まります。そのため、反射材の利用や照明の確保が必要になります。紫波町赤石地区のJAいわて中央水稲もち種子生産部会は、県内外に優良種子を供給するため、適期刈り取りを徹底してきました。そのため、日没後の収穫作業もやむを得ない状況になるなか、事故への危機意識を持っていました。

そこで、今年度から、夕方以降に作業する部会員を対象に、反射テープとLEDライトが装着された安全ベストを導入し、夜間の農作業安全に取り組みました。部会長の高橋勘一氏によると、「安全ベストとLEDライトにより作業する部会員の位置確認が容易になった」、「道路上では一般車両が減速するため事故の危険が減少した」等、装着した部会員からは好評だったそうです。

今後こうした取組みは、農作業安全の優良事例として積極的にお知らせしていきます。



安全ベストを着用しての夜間収穫作業



LEDライト装着安全ベスト

コントラクターでもっと！自給飼料の活用を～滝沢村花平地区の取り組み～

9月下旬、(社)岩手県農業公社のコントラクターが、滝沢村の花平地区において飼料用トウモロコシ収穫の受託作業を実施しました。公社が自走式大型収穫機で収穫し、生産集団が運搬・貯蔵作業を組作業で行いました。

今回の大型収穫機には子実の破砕処理機能が搭載されています。破砕処理とは、トウモロコシの子実の消化性向上のため、収穫時に細断された原料をハーベスターに搭載した2本のローラの間で子実をすり潰すことです。

今回の収穫作業は作業直前の台風で倒伏の被害もありましたが、大型機械の作業能率に対応するため、伴走してトウモロコシを運搬する2t ダンプを4台稼働させました。給与時の作業性を考慮し、タワーサイロとバンカーサイロを組合せて詰め込みを行う農家も見られました。良質なトウモロコシサイレージが生産され、生乳の生産性向上が期待されます。

花平地区では、若手酪農家で組織する花平同志会が中心となり、将来の経営を見据え、作業の効率化と自給飼料の品質向上を図るため、集合研修やサイレージコンクールを行うなど技術研鑽を図っています。それに対して、普及センターは、研修会や個別管理指導を行ってきました。今後も関係機関と協力し、支援を強化していきたいと思えます。



大型機械による飼料用トウモロコシ収穫の様子